

史跡整備基本計画の遺産影響評価の方針について

1. スケジュール

	R5 年度				R6 年度													
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
学術 委員会	●			●				●			●		●			●		
	HIA 手法案			計画骨子案				計画案			HIA 報告書案		HIA 報告書案					
HIA		手法検討				HIA 詳細分析報告書検討・英訳												★ 提出
整備基 本計画		素案作成				計画案作成											パブコメ	★ 策定
百舌鳥 委員会	○			○			○		○		○					○		
古市 委員会		○		○		○				○				○	○	○		

2. 遺産影響評価の方針

(1) 復元展示の遺産影響評価にかかる留意点

- ・ 目的の明確化
- ・ 根拠となる考古学的データがあることの明示
- ・ 可逆的な工法をとることの明示
- ・ セッティングの観点からの OUV への影響検討
- ・ ポジティブな影響かネガティブな影響かに留意した OUV への影響検討
- ・ 持続可能な開発への貢献も含めた考古学以外の観点への着目
- ・ 対象となる構成資産にかかる情報の整理

(調査成果、整備の緊急度、整備前後の日常管理の担い手及び地域住民の関わり 等)

【第 43 回世界遺産委員会決議 追加的勧告】

c) 史跡指定されている構成資産に対して準備されている整備基本計画を完成させること。その際、計画と保存の目的および顕著な普遍的価値 (OUV) の保護との間の整合性を確実に担保すること。

(2) 遺産影響評価の手法 (案)

1) 整備基本計画全体についての評価

基本方針、基本計画と、HIA マニュアルに示す「顕著な普遍的価値の保存管理方針と方法」との整合性を確認する。

2) 復元展示についての評価

整備基本計画のうち「遺構の表現に関する計画」について、計画が及ぼしうる影響を下記の手法により具体的に評価する。

影響	評価項目	手法
「顕著な普遍的価値」への影響	a) 49 基の墳墓に直接的かつ大規模な改変があるか	計画が構成資産の遺構・遺物に負の影響を及ぼすかを調査成果に基づき評価
	b1) 古墳の視覚的存在感を阻害するか	視点場及び周遊ルートからの古墳への眺望に影響を及ぼすかを、現況写真、計画実施後のパース図等の比較により評価 ※正の影響（存在感の高まり）についても評価
	b2) 古墳と古墳の間の繋がりを阻害するか	視点場及び周遊ルートからの古墳間の繋がりへの眺望に影響を及ぼすかを、現況写真、計画実施後のパース図の比較により評価 ※正の影響（繋がり顕在化）についても評価
	c1) 独特な葬送習慣の物証に直接的かつ大規模な改変があるか	a) と同じ
	c2) 祭祀や参拝を阻害するか	計画の対象地と祭祀・参拝の場所との関係性（位置関係、計画対象地への眺望）により評価
「緩衝地帯の機能」への影響	顕著な普遍的価値を守るための緩衝地帯の機能を阻害するか	諸規制への適合及び緩衝地帯保全の考え方との整合性より評価
「価値理解の促進」への影響	資産の価値に対する来訪者の理解を促進するか	計画が来訪者の価値理解に及ぼしうる影響より評価 ※正の影響（より深い理解の促進）、負の影響（誤解を与える懸念）の双方を評価

(3) 遺産影響評価詳細分析報告書目次 (案)

- 1 要約
- 2 目次
- 3 はじめに
- 4 世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の概要
 - (1) 名称
 - (2) 世界遺産一覧表への記載日
 - (3) 構成資産一覧
 - (4) 構成資産の位置及び緩衝地帯の範囲
 - (5) 顕著な普遍的価値
 - (6) 国内法による資産の保全
 - (7) 第 43 回世界遺産委員会における追加的勧告
- 5 評価の経緯
- 6 評価の方法及び実施主体者
- 7 事業の概要
 - (1) 全体概要
 - ・ 計画策定の経緯
 - ・ 両計画に共通する方針
 - (2) 史跡百舌鳥古墳群整備基本計画の概要
 - (3) 史跡古市古墳群整備基本計画の概要
- 8 事業による資産への影響
 - (1) 「顕著な普遍的価値」への影響
 - (2) 「緩衝地帯の機能」への影響
 - (3) 「価値理解の促進」への影響
- 9 緩和策の説明
- 10 評価
- 11 参考文献
- 12 添付資料
 - (1) 史跡百舌鳥古墳群整備基本計画 (概要版)
 - (2) 史跡古市古墳群整備基本計画 (概要版)